

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年8月4日 (2016.8.4)

【公表番号】特表2015-522582(P2015-522582A)

【公表日】平成27年8月6日 (2015.8.6)

【年通号数】公開・登録公報2015-050

【出願番号】特願2015-519247(P2015-519247)

【国際特許分類】

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

G 0 1 N 33/58 (2006.01)

C 0 7 K 14/705 (2006.01)

C 0 7 K 14/18 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 0 7 K 7/06 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K 19/00 Z N A

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 5/00 1 0 2

G 0 1 N 33/58 Z

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 14/18

C 0 7 K 14/47

C 0 7 K 7/06

【手続補正書】

【提出日】平成28年6月9日 (2016.6.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 5 】

本発明の第 2 の態様の更なる好ましい実施の形態において、小胞体保持シグナルは、K D E L、H D E L、K K X X、K X K X X 及び R X R からなる群より選択されるペプチドであり、ここで X はいずれのアミノ酸であってもよく、好ましくは、該小胞体保持シグナルは K D E L であり、及び / 又は、膜局在ペプチドは、配列番号 17 のインターロイキン - 2 受容体の細胞外ドメイン若しくはアミノ酸同一性に基づいて全領域にわたってこれらの配列のいずれかと少なくとも 90 % の相同性のある変異体である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 1 】

本発明の第 3 の態様の更なる好ましい実施の形態において、小胞体保持シグナルは、K D E L、H D E L、K K X X、K X K X X 及び R X R からなる群より選択されるペプチドであり、ここで X はいずれのアミノ酸であってもよく、好ましくは、該小胞体保持シグナ

ルはKDELであり、及び／又は、膜局在ペプチドは、配列番号17のインターロイキン-2受容体の細胞外ドメイン若しくはアミノ酸同一性に基づいて全領域にわたってこれらの配列のいずれかと少なくとも90%の相同性のある変異体である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

本発明の第4の態様の更なる好ましい実施の形態において、小胞体保持シグナルは、KDEL、HDEL、KKXX、KKXX及びRXXからなる群より選択されるペプチドであり、ここでXはいずれのアミノ酸であってもよく、好ましくは、該小胞体保持シグナルはKDELであり、及び／又は、膜局在ペプチドは、配列番号17のインターロイキン-2受容体の細胞外ドメイン若しくはアミノ酸同一性に基づいて全領域にわたってこの配列と少なくとも90%の相同性のある変異体である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0061】

本発明の第2の態様の更なる好ましい実施形態において、小胞体保持シグナルは、KDEL、HDEL、KKXX、KKXX及びRXXからなる群より選択されるペプチドであり、ここでXはいずれのアミノ酸であってもよく、好ましくは、該小胞体保持シグナルはKDELであり、及び／又は、膜局在ペプチドは、配列番号17のインターロイキン-2受容体の細胞外ドメイン若しくはアミノ酸同一性に基づいて全領域にわたってこれらの配列のいずれかと少なくとも90%の相同性のある変異体である。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0067

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0067】

本発明の第3の態様の更なる好ましい実施形態において、小胞体保持シグナルは、KDEL、HDEL、KKXX、KKXX及びRXXからなる群より選択されるペプチドであり、ここでXはいずれのアミノ酸であってもよく、好ましくは、該小胞体保持シグナルはKDELであり、及び／又は、膜局在ペプチドは、配列番号17のインターロイキン-2受容体の細胞外ドメイン若しくはアミノ酸同一性に基づいて全領域にわたってこれらの配列のいずれかと少なくとも90%の相同性のある変異体である。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0073

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0073】

本発明の第4の態様の更なる好ましい実施形態において、小胞体保持シグナルは、KDEL、HDEL、KKXX、KKXX及びRXXからなる群より選択されるペプチドであり、ここでxはいずれのアミノ酸であってもよく、好ましくは、該小胞体保持シグナルはKDELであり、及び／又は、膜局在ペプチドは、配列番号17のインターロイキン-2受容体の細胞外ドメイン若しくはアミノ酸同一性に基づいて全領域にわたってこれらの

配列のいずれかと少なくとも 90 % の相同性のある変異体である。